



2020年環境レポート



新田ゼラチン株式会社

ごあいさつ

当社は1918年に創業し、1935年に現大阪工場竣工以来、地域社会の一員として環境に配慮した生産活動を行ってきました。

当社のコラーゲン関連製品であるゼラチン、コラーゲンペプチドは、畜肉産業や水産業で取り扱われている健康な牛・豚・魚の骨・皮・鱗を原材料としています。各製品の製造にあたっては、多量の水資源・エネルギーを必要とするため、従来から省エネ・CO₂削減・水資源削減には積極的かつ継続的に取り組んでまいりました。その結果、昨年度の本社・大阪工場のエネルギー使用量は前年度比7.1%減少し、CO₂排出量も同8.4%減少しました。

これからも持続的発展が可能な社会の実現に貢献するため、社会・地域・そして当グループで働くすべての人々に配慮した事業活動を行ってまいります。

新型コロナウイルス感染症に対しては、政府や自治体からの緊急事態の要請を受け、当社はお客様、地域社会、従業員及びそのご家族の安全確保を最優先に取り組み、日本国内及び海外拠点において事業を継続しております。

2020年5月21日

取締役執行役員 環境管理担当

長岡 令文

環境方針

安全・環境方針

私たちは、社会、地域そして当社グループで働く全ての人々のために、環境、健康、安全に配慮した事業活動を行い、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

- 関連する諸法令を順守し、環境の保全、健康・安全の確保に取り組めます
- 事業活動が、環境、健康、安全に及ぼす影響を評価し、目標を定めて改善に取り組めます
- 当社グループで働く全ての人々に、安全・環境方針の周知徹底を行い、意識の向上に取り組めます

2019年6月1日

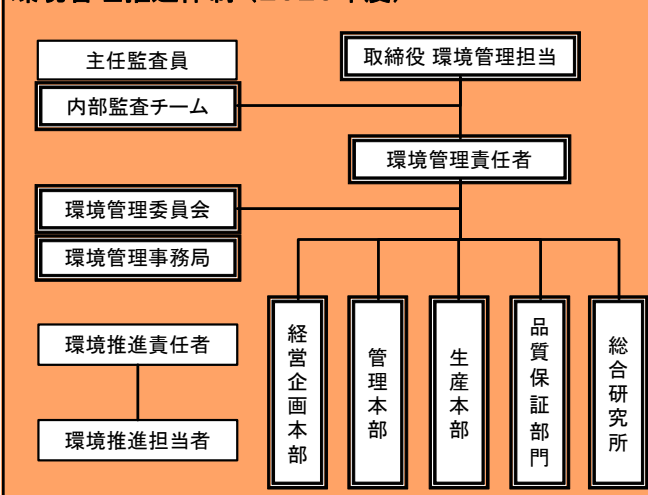
推進体制

本社・大阪工場では、経営層（取締役環境管理担当）、環境管理責任者、各部門長である環境推進責任者と主任監査員及び環境管理事務局から構成される「環境管理委員会」を四半期毎に開催しております。環境目標の進捗管理等、環境マネジメントシステムの運用状況については、同委員会で報告・協議し、方針決定いたします。

毎月各部署で収集される環境パフォーマンスは環境管理事務局で集約管理し、必要に応じて環境管理責任者が対応策を検討いたします。

マネジメントシステム全体の監視は内部監査チームが行っておりますが、構成監査員は適宜新しい要員と交代し、新たな視点と広い視野をもって取り組むよう努めております。

環境管理推進体制（2020年度）



環境マネジメントシステムの取り組み

本社・大阪工場は、1999年12月にISO14001:1996 を認証取得し、それ以降国際規格に基づいた環境マネジメントシステム(EMS)を軸に環境負荷低減に取り組んでおります。

1. 本社・大阪工場ISOの歴史

1997年	環境マネジメントシステム(EMS)導入を決定
1998年 9月	環境管理委員会発足、EMS運用開始
1999年12月	ISO14001:1996 認証取得 (審査機関:一般財団法人日本品質保証機構)
2005年12月	ISO14001:2004 へ移行
2017年12月	ISO14001:2015 へ移行

2. 本社・大阪工場EMS適用範囲

登録活動事業者:

新田ゼラチン株式会社 本社・大阪工場

所在地:

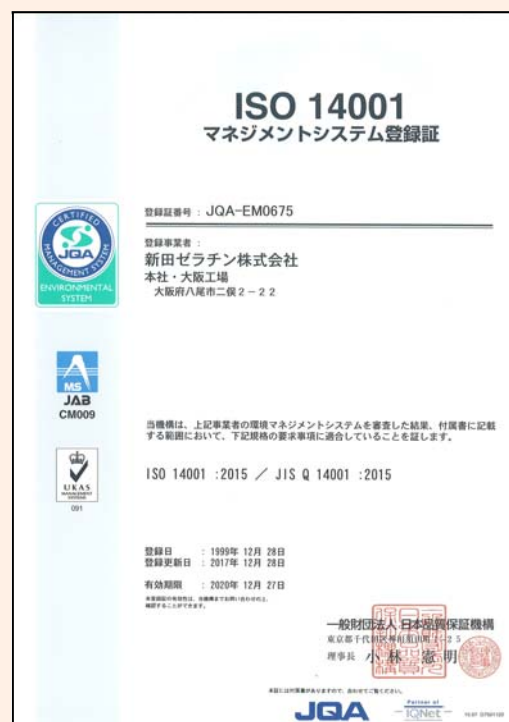
大阪府八尾市二俣2-22

登録活動範囲:

1. 下記製品の製造

- 1) 食用、医薬用、写真用ゼラチン
- 2) 包装用、製本用、建材用、衛材用接着剤
- 3) 化粧品用、生体材料用、生化学用コラーゲン

2. ゼラチン、コラーゲンの研究開発



ISO14001 マネジメントシステム登録証

環境への取り組み

本社・大阪工場は、多くのエネルギー・水資源を使用するため、環境に大きな負荷を与えております。これらの負荷を軽減するため、当工場ではこれまで様々な取り組みを行ってまいりました。

1. 近年の主な取り組み

- 2012年 高効率型濃縮機導入による省エネ・CO₂削減
工場全体の節電対応(シフト生産、業務部門の省エネ対策)
ファックスのペーパーレス化によるコピー用紙削減
- 2013年 高効率型濃縮機の安定稼働
工場全体の省エネ活動推進
社内イントラネット導入による業務効率化、ペーパーレス化
- 2014年 コージェネ発電機排熱回収設備の導入
- 2015年 コージェネ発電機排熱回収設備の安定稼働
- 2016年 排水処理施設への負荷低減対策と大規模保全工事を実施
- 2017年 排水処理施設の改良を継続
冷温水機の第一期更新と運転最適化
工場全体の継続的省エネ(大型設備の効率運転、製造設備のインバータ化推進等)
- 2018年 新原料対応設備の設置完了
排水処理施設への負荷低減に伴う省エネ効果確認
コージェネ発電機更新及び排熱回収設備の移設
冷温水機の第二期更新
- 2019年 コージェネ発電機排熱回収設備の安定稼働
冷温水機の第三期更新(全台更新完了)



除湿用冷温水機全台更新完了(2019年8月)

2. 2020年度の取り組み

- ・従業員の省エネ意識の向上に努める。
- ・生産工程の見直しと老朽化機器の更新による効率アップ
- ・工場全体の継続的省エネ推進
(工場のデマンド管理、昼間休憩時間内の不要な空調・照明の停止、クールビズ・ウォームビズの励行等)
- ・社内イントラネット活用による業務効率化の推進
- ・地域清掃の実施(6月、12月)
- ・工場周辺パトロールの実施(6月、9月、12月、3月)

3. 継続的な取り組み

- ・製造工程の効率化によりエネルギー効率を向上
- ・工場の緑化
- ・工場周辺パトロール(年4回)と地域清掃(年2回)実施による環境美化活動
- ・小学校社会科工場見学の受け入れ(近隣10校)
- ・照明の省電力化
- ・人感センサーによる照明自動消灯設備の設置
- ・紙包材の紙資源化、熱資源化
- ・フレコンバッグの再利用
- ・廃油の有価リサイクル化

2019年度環境活動実績 (2019年4月1日～2020年3月31日)

本社・大阪工場では、年間計画に基づいて環境活動を推進し、目標達成を目指しております。

エネルギーは、前年度(2018年12月)にコージェネ発電機更新、高品質製品の全量生産化設備導入完了、さらに2019年8月に冷温水機の全台更新完了により生産性・エネルギー効率が向上し、原単位は前年度より減少しました。

CO₂排出量についても同様にエネルギー効率向上により減少し、目標達成しました。

廃棄物については、環境負荷の大きい埋立廃棄物の排出を抑制した結果、排出量目標を大幅にクリアしました。

廃棄物リサイクル率については、これまで通り100%近い状態を維持できております。

水資源については、製品品質を維持した中で取水量の削減や再利用に取り組んでおり、目標を達成しました。

紙資源については、社内IT化を進めて出来るだけコピー用紙使用量を減らすよう運用しておりますが、2019年度は前年より僅かに増加しました。

その他法順守、環境教育の推進、工場周辺環境整備等についても適切に対応しております。

環境目標	環境テーマ	実績	評価
環境法規制順守	環境法規制に基づく運用管理の徹底	予定通り実施	○
	是正措置の実施	異常なし	○
	環境影響の予測	新規導入・更新設備のアセスメントを1件実施	○
省エネルギーの推進	製造エネルギー原単位の削減(前年度実績未達)	目標達成(目標比△2.9%)	○
CO ₂ 排出量削減	大阪工場全体のCO ₂ 排出量削減(省エネ設備導入後水準維持)	目標達成(目標比△8.4%)	○
廃棄物の削減	埋立廃棄物の削減(5t以下)	排出量 1.1tで目標達成	○
廃棄物の適正処分	廃棄物リサイクル化の維持・管理	廃棄物リサイクル率 99.8%	○
水資源の削減	排水の排出量抑制(900,000t未達)	目標達成(目標比△11.5%)	○
紙資源の削減	コピー用紙の使用量の削減(前年実績未達)	目標未達(目標比+1.3%)	×
環境教育の推進	一般啓蒙教育の推進(都度)	予定通り実施	○
	啓蒙活動の推進(2回/年)	予定通り実施	○
	指定業務教育の推進(都度)	予定通り実施	○
	内部監査員教育の推進(1回/年)	予定通り実施	○
工場周辺の環境整備	地域清掃の実施(2回)	予定通り実施	○
	工場パトロールの実施(4回)	予定通り実施	○

○：目標達成

△：前年実績は下回るが、目標は未達

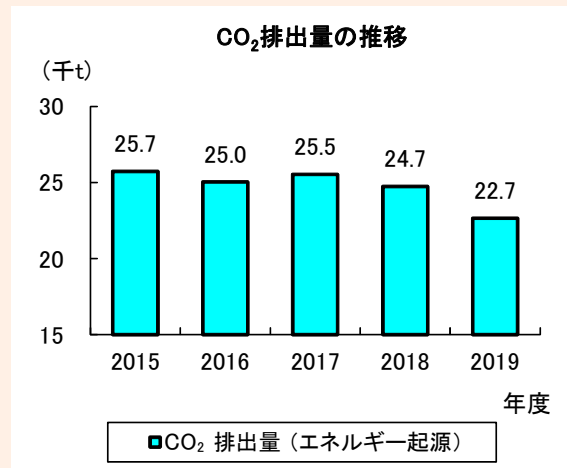
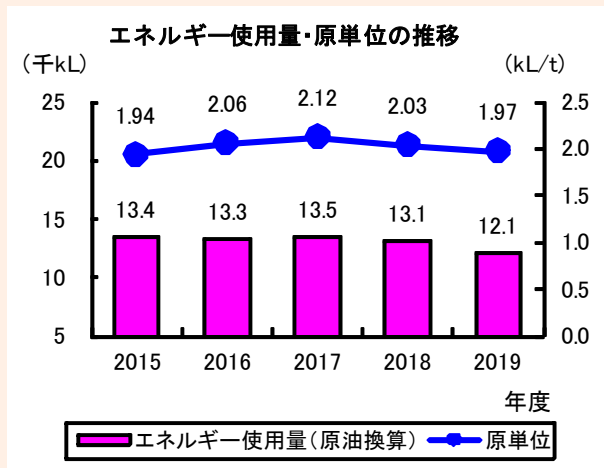
×：前年実績・目標ともに未達

省エネ活動とCO₂削減への取り組み

製造部門では、冷温水機、ボイラーや発電機の更新等により、エネルギー効率を高め、工程の改良に努めております。また業務部門でもOA機器や照明・空調などの省エネを推進しております。

2019年度は、前年度に導入した新型コージェネ発電機安定稼働等によるエネルギー効率アップにより、エネルギー使用量(原油換算)は前年度比7.1%減少し、原単位(製品1tあたりのエネルギー使用量)も前年度比2.9%減少しました。

CO₂ 排出量(総量)についても同様の理由で、前年度比8.4%減少しました。

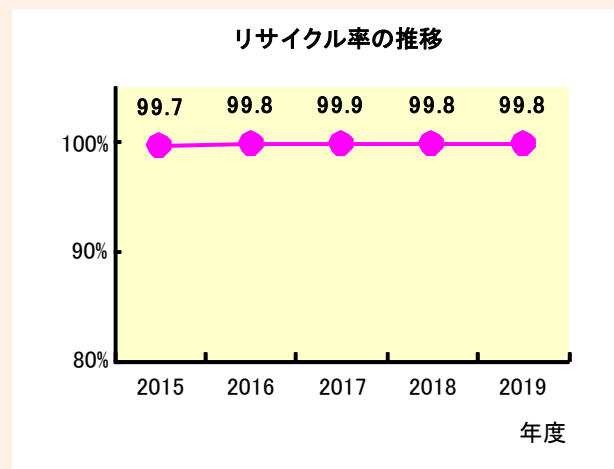
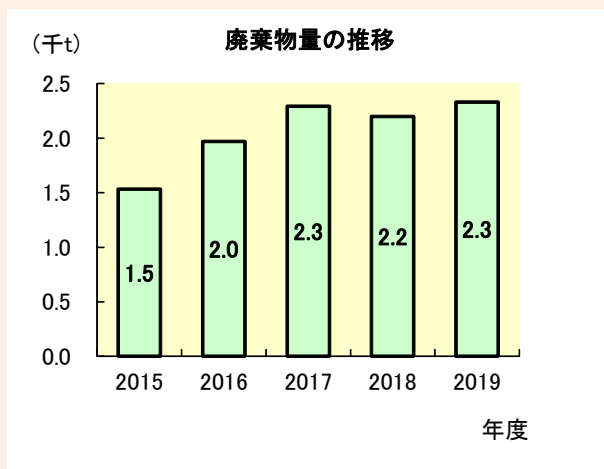


廃棄物管理

排水処理では多大なエネルギーを消費しています。エネルギー負荷低減のため処理前の排水から固形物を分離回収できるよう、2016~2017年度に設備改造を行いました。

改造前と比較すると回収した固形物により廃棄物量は増加しておりますが、2017年度以降は安定した水準で推移しております。

全廃棄物のリサイクル処理率(熱リサイクル含む)は99.8%で、100%近いレベルを維持できています。

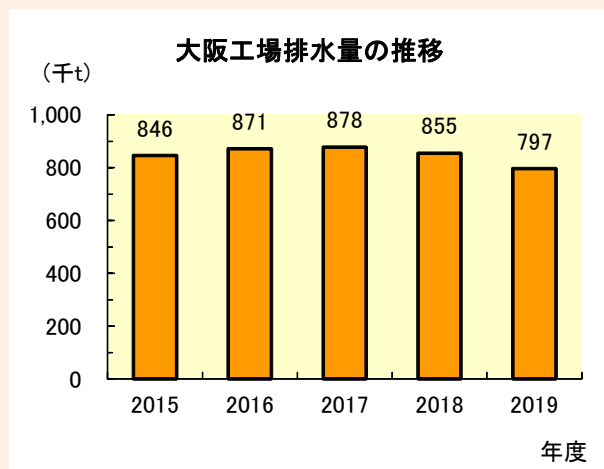


省資源活動

1. 水資源

近年、製品品質の維持・向上のために、工程設備の洗浄を強化しており、2019年度についても安定して推移しております。

引き続き、作業工程の見直し等により、製品品質を維持した中で取水量の削減や再利用に取り組んでまいります。

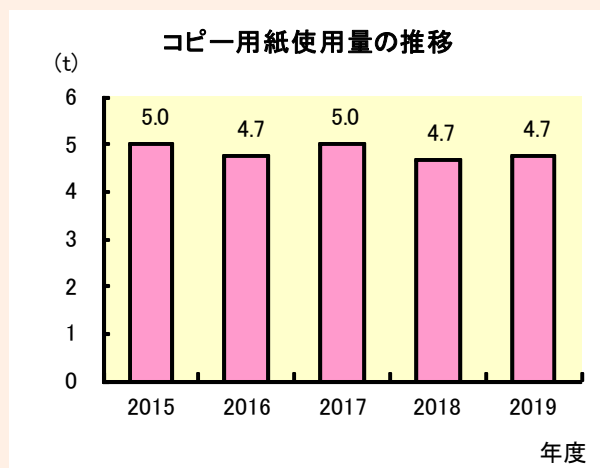


2. 紙資源

2019年度のコピー用紙使用量は前年度比1.3%増となり、残念ながら目標未達に終わりました。

過去5年間の使用量で見ると概ね4.7~5.0tで推移しております。

2020年度は業務プロセスの見直し及び社内IT化を更に推進し、紙資源の恒常的な削減に努めてまいります。



教育活動

本社・大阪工場で働く全ての従業員を対象に、新入社員教育、一般教育、推進担当者教育等を推進し、意識向上・啓蒙活動に努めております。

1. 環境セミナー

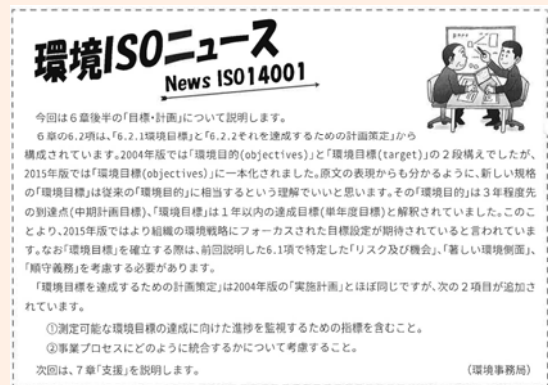
7月には、工場の全従業員対象の啓蒙活動を目的とした環境一般セミナーを実施しました。当社の排水処理の仕組みについて勉強し、従業員の環境意識向上を図りました。



環境一般セミナー(2019年7月)

2. 社内報

社内報には、定期的に環境特集記事を掲載し、環境活動の重要性や社内での活動報告を行い、従業員の意識向上を図っています。現在は2015年版の規格説明を章毎に順次行っています。



社内報記事(2019年8月)

緊急事態対応

1. 消防訓練・防災訓練

八尾市消防署の指導の下、2019年11月に防災訓練、2020年1月に消防訓練を行いました。

消防訓練では避難訓練と消火水槽を使った放水訓練を行い、防災訓練では安否確認を重視した訓練と地震避難訓練を行いました。



防災訓練(2019年11月)

2. 緊急事態訓練

薬品漏洩等の事故・緊急事態を想定した模擬訓練を2019年12月に実施しました。

訓練では屋内タンクからの塩酸漏洩を想定し防護服着用の実地確認を行いました。また他部署からも多数の従業員が見学しました。



塩酸漏洩緊急事態訓練(2019年12月)

企業市民としての活動

社会貢献活動

地域の方々との様々な関わりの中で、皆様から信頼される良き企業市民として地域社会との共生に努めております。

1. 地域清掃・環境パトロール

近隣周辺は比較的きれいに清掃されていますが、必要に応じて放置された粗大ごみや、冬には路上に堆積した大量の落ち葉の回収を行っております。

地域清掃は5月(第36回)と12月(第37回)に実施し、延べ92名の従業員が参加しました。

また、四半期毎に環境パトロールを年4回実施し、周辺の環境美化に努めております。



工場周辺の地域清掃(2019年12月)

2. 地域緑化・工場緑化

地域の緑化に貢献するため、継続的に敷地内に植樹をしております。毎年入社式の際には、新入社員による記念植樹を行っております。

また構内には季節の花が咲き、来社されるお客様や見学者の心を和ませております。



グラウンドの桜(2019年4月)

3. グラウンド一般利用

グラウンドを開放し、年間を通して少年サッカークラブの練習にご利用いただき、春には桜の花見をたくさんの方々に楽しんでいただいております。

2019年4月には、当社の特別協賛の下、「桜フォトロゲイニング in 八尾・柏原」が開催され、多数の愛好家に参加いただきました。



フォトロゲイニングの様子
(2019年4月 当社環境事務局撮影)

4. 工場見学

秋には、近隣小学校の社会科見学を積極的に受け入れております。2019年度は11校総勢724名の児童・教職員の方々にお越しいただき、ゼラチンを使ったお菓子づくりやアーティストックスイミング(シンクロナイズドスイミング)の選手がゼラチンでどのように髪をセットしているのかを体験していただきました。



社会科見学の様子(2019年12月)

2020年度 環境目標

2020年度の本社・大阪工場環境保全活動の目標は、2019年度の実績を基に見直し、具体的な行動展開につなげるべく新たな目標を設定して、推進してまいります。

エネルギー使用量、CO₂排出量を前年よりも確実に減らし、前年度目標未達であった紙資源削減については、業務プロセスの見直し及び社内IT化の推進により、紙資源の恒常的な削減に努めてまいります。

環境目標	環境テーマ	目標値
環境法規制順守	環境法規制に基づく運用管理の徹底	法順守
	是正措置の実施	実施
	環境影響の予測	アセスメント実施
省エネルギーの推進	製造エネルギー原単位の抑制 (原油換算)	1.95kL/t 未満
CO ₂ 排出量抑制	大阪工場全体のCO ₂ 排出量抑制	24,000t 未満
廃棄物の削減	埋立廃棄物の排出量抑制	5t以下
廃棄物の適正処分	廃棄物リサイクル化の維持・管理	99% 以上
水資源の削減	排水の排出量抑制	900,000t 未満
紙資源の削減	コピー用紙の使用量の削減	過去3年平均実績未満
環境教育の推進	一般啓蒙教育の実施	都度実施
	啓蒙活動の推進(教育・セミナーの実施)	3回/年
	指定業務教育の実施	都度実施
	内部監査員教育の実施	1回/年
工場周辺の環境整備	地域清掃の実施	2回/年
	環境パトロールの実施	4回/年



発行元 : 新田ゼラチン株式会社 本社・大阪工場
発行責任者 : 環境管理責任者 吉村 充浩
発行日 : 2020年 6月 1日
お問合せ先 : 環境管理事務局(管理本部 工場管理センター内)
住所 : 〒581-0024
大阪府八尾市二俣2-22
電話 : 072-948-7190(直)
FAX : 072-949-8087